



I 第16週の発生動向 (2026/4/13~2026/4/19)

1. 警報・注意報は発令されていません。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、県全体の定点当たり報告数が過去5年間の平均を上回る状況が続いていますので、今後の発生動向に十分注意が必要です。
3. 日頃から手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「麻しん」です。
最終ページに掲載しています。

II 第16週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

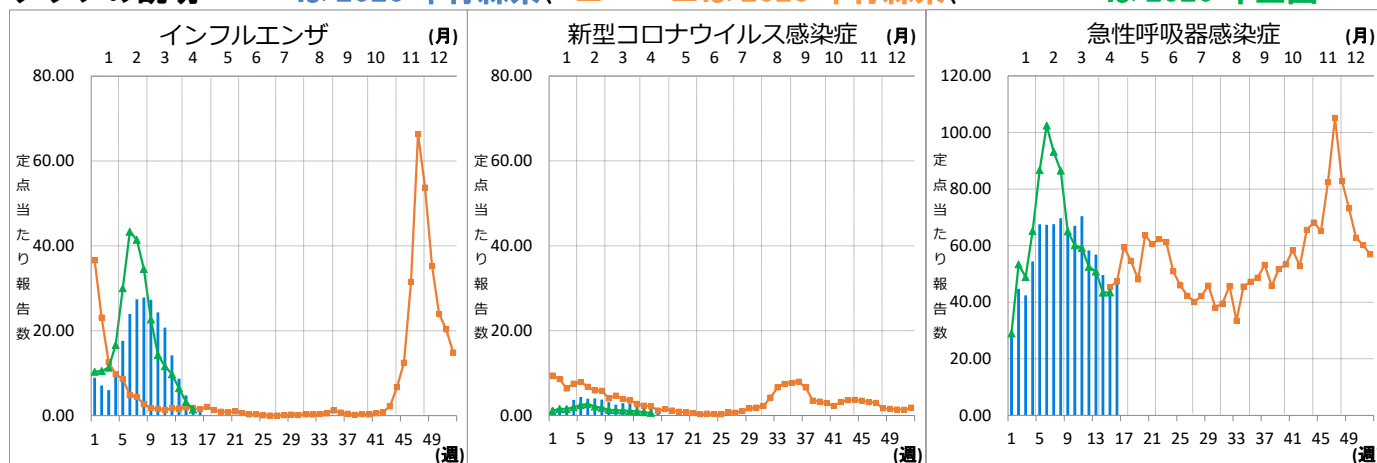
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

■ は警報、■ は注意報。「空欄」: 患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減 数
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	11	1.00	8	0.80	4	0.40	20	3.33	16	1.78	9	1.50	68	1.31	-64
	新型コロナウイルス感染症	16	1.45	3	0.30	6	0.60	6	1.00	34	3.78	13	2.17	78	1.50	-31
	急性呼吸器感染症	716	65.09	294	29.40	386	38.60	320	53.33	405	45.00	363	60.50	2484	47.77	166
小児科	RSウイルス感染症			2	0.33	6	0.86	1	0.20	1	0.17	8	2.00	18	0.53	7
	咽頭結膜熱	2	0.33			1	0.14			3	0.50	1	0.25	7	0.21	2
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20	3.33	19	3.17	16	2.29	28	5.60	13	2.17	11	2.75	107	3.15	36
	感染性胃腸炎	21	3.50	9	1.50	24	3.43	21	4.20	24	4.00	2	0.50	101	2.97	2
	水痘	1	0.17			1	0.14							2	0.06	-2
	手足口病			1	0.17									1	0.03	0
	伝染性紅斑							1	0.20					1	0.03	1
	突発性発しん	2	0.33			4	0.57	2	0.40	1	0.17			9	0.26	0
	ヘルパンギーナ															0
	流行性耳下腺炎															0
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎					2	1.00			1	0.50			3	0.30	2
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)									1	1.00			1	0.17	1
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎											7	7.00	7	1.17	6
	無菌性髄膜炎															0

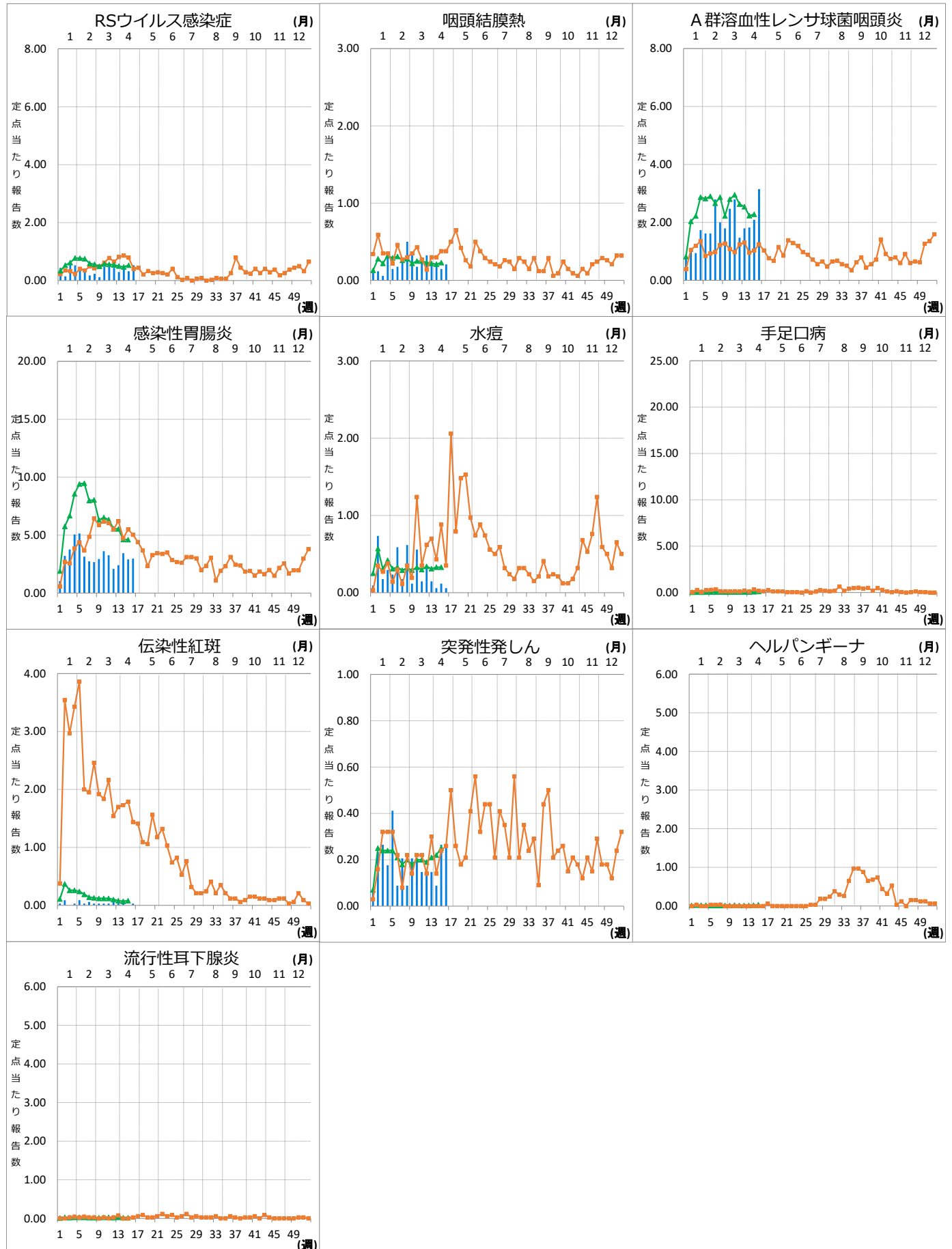
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第16週、ただし全国は前週)

グラフの説明: 青線は2026年青森県、赤線は2025年青森県、緑線は2026年全国



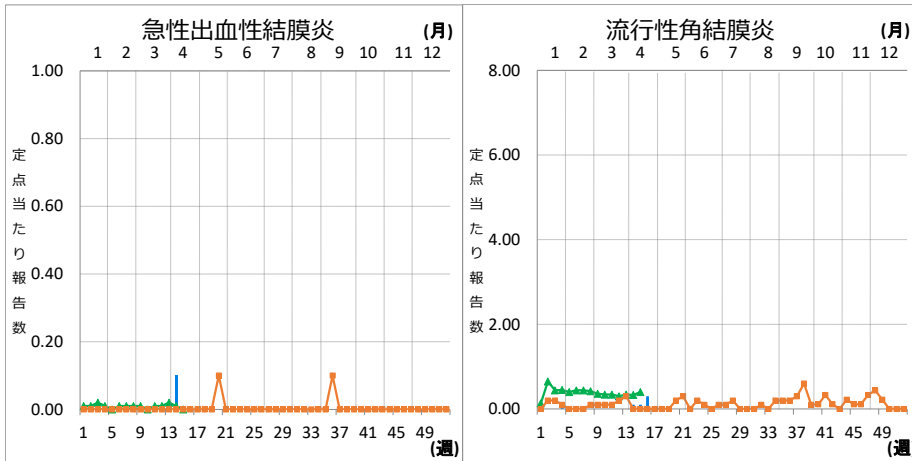
IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026年第16週、ただし全国は前週）

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



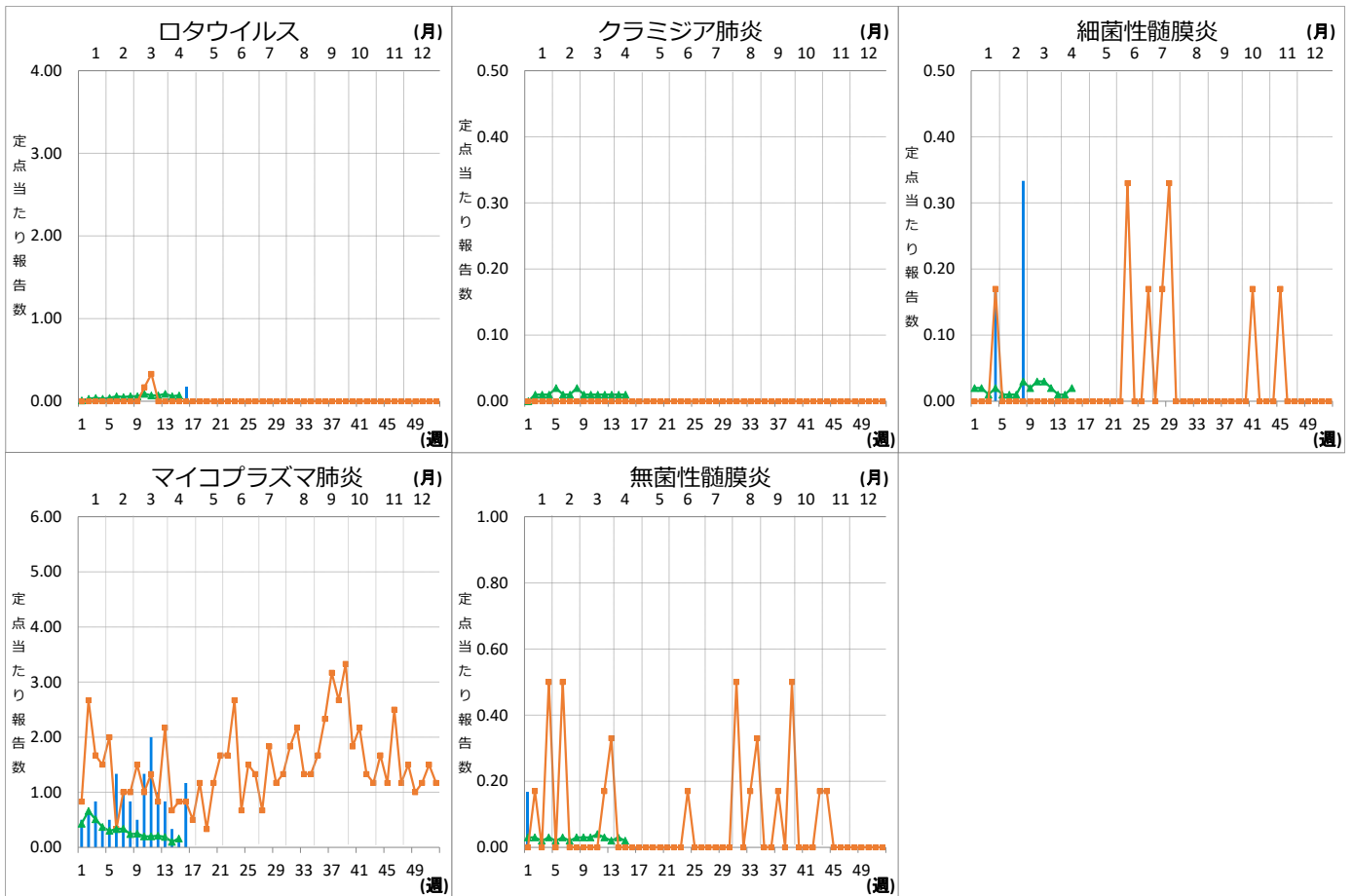
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026年第16週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026年第16週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026年第9週～16週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週
提出検体数	11	5	6	10	7	10	7	5
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザウイルスB	7	2	1	1	3	3	0	
SARS-CoV-2	1	0	0	1	1	2	0	
RSウイルスA	2	0	2	3	0	0	0	
RSウイルスB	0	0	0	0	0	1	1	
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	1	0	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	1	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	0	1	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	0	2	3	0	0	1	0	
アデノウイルス	0	2	1	0	0	0	0	
不検出	2	1	1	6	2	3	6	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	5

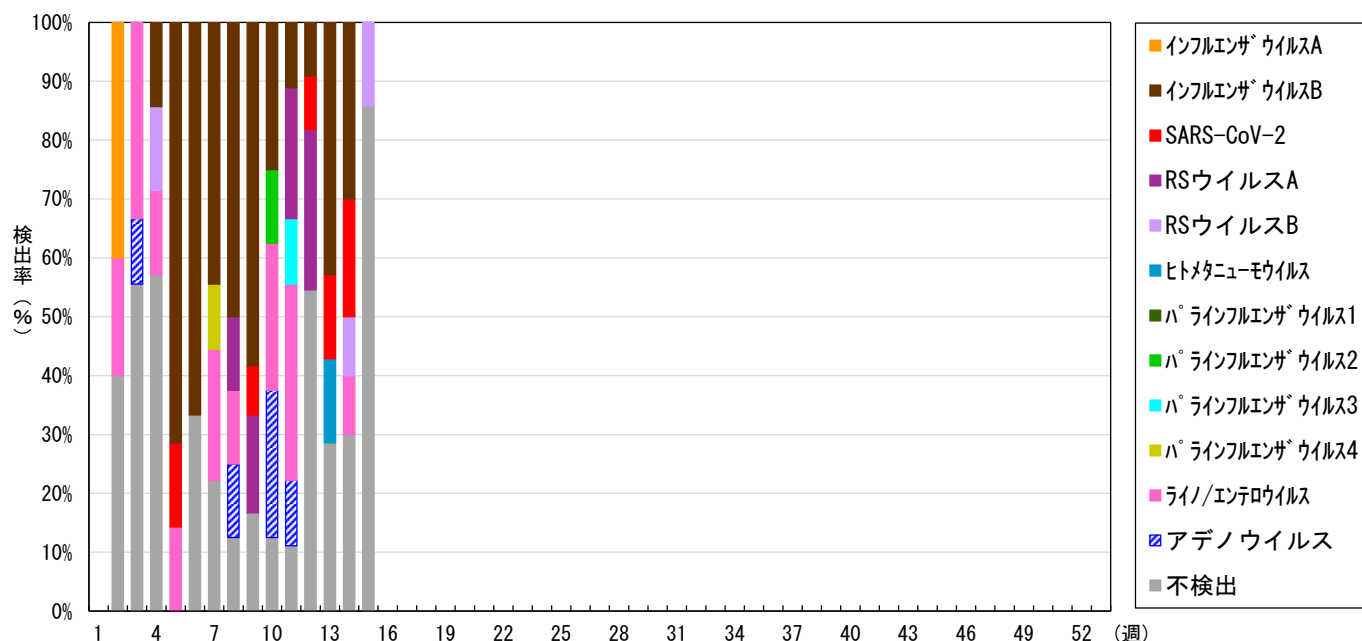
※第9週に提出された検体のうち、SARS-CoV-2及びRSウイルスAが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第10週に提出された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが検出されたものが1検体、インフルエンザウイルスB、ヒトパラインフルエンザウイルス2及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第11週に提出された検体のうち、RSウイルスA、パラインフルエンザウイルス3、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第12週に提出された検体のうち、SARS-CoV-2及びRSウイルスAが重複して検出されたものが1検体ありました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2026年第1週～15週)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第16週）

- ・結核（二類感染症）：青森市1人、西北1人 (2026年計： 21人)
- ・侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）：中南1人 (2026年計： 7人)
- ・百日咳（五類感染症）：八戸市1人 (2026年計： 16人)

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026年第13週～2026年第16週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
13		侵襲性インフルエンザ菌感染症1人	結核1人 クロイツフェルト・ヤコブ病1人 百日咳1人			
14	結核1人 侵襲性インフルエンザ菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人 百日咳2人			
15		侵襲性肺炎球菌感染症1人 梅毒1人	百日咳2人		腸管出血性大腸菌感染症1人 梅毒1人	
16	結核1人	侵襲性肺炎球菌感染症1人	百日咳1人	結核1人		

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2026年第1週～第15週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムボックス	オウム病
累積報告数	3837	25	495	8	5	182	59	5	37	1

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類
疾病名	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢
累積報告数	1	10	35	26	10	1	10	469	3	140

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症
累積報告数	54	278	6	137	3	46	440	247	12	150

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	多剤耐性緑膿菌感染症	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん
累積報告数	18	937	214	3	2987	56	21	27	2329	1

分類	五類	五類
疾病名	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
累積報告数	299	6

青森県（2026年第1週～第16週までの累計）

分類	二類	三類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒
累積報告数	21	6	3	2	5	1	4	7	6	4

分類	五類
疾病名	百日咳
累積報告数	16

XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026年第16週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第16週	報告なし		

2026年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月			5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)	
		1-5週	6-9週	10-13週	14週	15週	16週	17週	18週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週		45-48週
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	6	0	1	0										11
	発症者数	37	44	69	0	14	0										
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	1	1	1	0										7
	発症者数	92	0	30	12	31	0										
障がい関係施設	件数	1	0	1	0	0	0										2
	発症者数	20	0	18	0	0	0										
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0										0
	発症者数	0	0	0	0	0	0										
計(月別)	件数	7	2	8	3												20
	発症者数	149	44	117	57												

感染症の窓

現在、国内外において麻しん患者の増加が報告されており、今後、更に感染が拡大することが懸念されています。

麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発しんが現れます。また、肺炎、中耳炎を合併しやすく、死亡する割合は先進国であっても千人に1人といわれています。

日本は、2015年にWHOにより、麻しんの排除状態にあることが認定されていますが、2023年以降は、国外における麻しん流行に伴い、国内でも海外からの輸入症例が増加している一方で、海外渡航歴のない症例も報告されています。

麻しんウイルスの感染力は非常に強く、手洗いやマスクだけでは、予防することはできません。ワクチン接種が最も有効な予防法です。

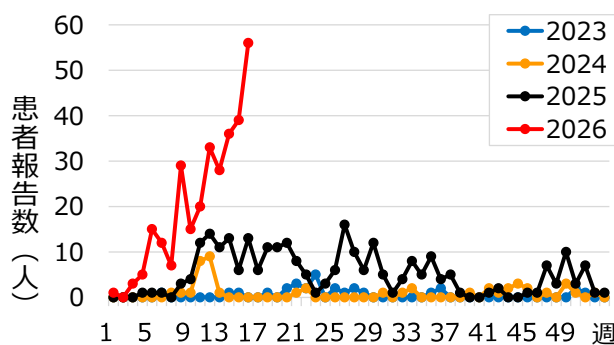
定期接種は1歳児および小学校入学前1年間の2回です。2回の確実な接種が必要です。また、定期接種対象者だけでなく、予防接種を受けていない方で麻しんにかかったことのない方は、かかりつけ医に相談のうえ、予防接種の検討をお願いします。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

☎ [麻しん（はしか）（厚生労働省 HP）](#)



麻しん（五類感染症）



図：全国における報告数の推移（2023～2026年第15週）